

グロス株ポートフォリオ分析

基準日: 2026年9月
作成: A. I. P 株式会社

セクターローテーション分析で選好する「情報技術・資本財（ロボティクス）」から厳選する成長株戦略

1 前提となるマクロ環境分析（2026年9月現在）

① セクターローテーション分析との整合

今月のセクターローテーション分析で「強気」評価とした情報技術・金融・資本財のうち、高成長率・高PER許容・イノベーション性というグロス株的特性に合致する情報技術・資本財（ロボティクス／自動化領域）の2セクターから銘柄を厳選する。ドル円155円台への円高進行を受けて「弱気」に格下げした一般消費財（自動車）は引き続き対象外とした。

② AI投資サイクルは継続、半導体競争激化の懸念による調整は「押し目」と判断

半導体関連株は競争激化懸念を背景に9月上旬にかけて値がさ株の変動が大きくなる場面があったが、AI・半導体関連の業績上方修正基調は継続しており、構造的な需要の強さは不変。調整局面はむしろグロス株の仕込み場と位置付ける。

③ ロボティクス・自動化領域はAI設備投資と省力化投資の裾野拡大の受益者

人手不足を背景とした国内の省力化・自動化投資需要は根強く、AI関連の設備投資需要が周辺の工場自動化（FA）・ロボティクス領域にも波及。内需比率が相対的に高く、円高進行の影響を受けにくい銘柄も多い。

④ 金利・為替：ドル円155円台の円高と日米引き締めはグロス株にとって「両面」の材料

7月の為替介入以降、ドル円は9月上旬に155円台前半まで一段と円高が進んだ。海外売上比率の高い半導体製造装置メーカー（東京エレクトロン・アドバンテスト等）にとっては円換算収益の目減りという逆風となる。一方、FRBはウォーシュ議長の下で9月利上げが意識され、日銀も9月に追加利上げの見込みと日米で引き締め方向だが、AI関連の構造的な需要と業績上方修正が高PER銘柄の下支えとなっている。金利・為替の両方向のリスクを注視しつつ、AI投資需要を軸に投資判断を行う。

2 最適な構成比率と主要投資指標

■ ポートフォリオ目標配分

情報技術
(55%)

資本財(ロボ)
(45%)

※セクターローテーション分析でオーバーウェイトと判定したセクターのうち、特に成長性の高いテーマ（AI半導体・ロボティクス自動化）に絞り込んで配分します。

■ ポートフォリオ予想総合指標（加重平均）

約 28%

平均売上成長率(前年比)

約 32倍

平均PER

約 22%

平均EPS成長率

6銘柄

組入銘柄数

2セクター

対象セクター数

10～15%

期待トータルリターン

3 採用銘柄・ETFの詳細分析

銘柄名（コード） ／比率	主要指標	株価上下要因・現在の位置	選定理由・スポンサー評価
情報技術 東京エレクトロン (8035)	売上成長率: 約20% PER: 約28倍	半導体競争激化懸念による調整をこなしつつ、先端ロジック・メモリ向け装置需要は底堅い。ドル円155円台の円高は円換算収益にはやや逆風。	半導体製造装置の世界大手として、AI投資サイクルの中核的な受益者。調整は押し目買いの好機。
情報技術 アドバンテスト (6857)	売上成長率: 約35% PER: 約35倍	AI半導体向けテスト需要の急拡大が続き、業績予想の上方修正が相次いでいる。円高は輸出採算にやや逆風。	AIチップの検査工程で高いシェアを持ち、AI投資サイクルの中でも特に高い成長率を誇る銘柄。
情報技術 レーザーテック (6920)	売上成長率: 約25% PER: 約34倍	EUV関連の検査装置需要が最先端プロセス投資の拡大とともに増加基調。	EUVフォトリソマスク検査装置で世界シェア100%に近い独占的地位を持ち、微細化投資が続く限り高成長が期待できる。
資本財(ロボ) ファナック (6954)	売上成長率: 約18% PER: 約27倍	AI・自動化投資と国内の省力化投資の拡大を受け、工場自動化（FA）関連の受注が回復基調。	産業用ロボット・CNC装置の世界大手として、AI設備投資の裾野拡大を最も享受しやすい銘柄。
資本財(ロボ) キーエンス (6861)	売上成長率: 約12% PER: 約38倍	高収益なファクトリーオートメーション（FA）センサー事業が、設備投資需要の拡大とともに成長を続ける。	圧倒的な営業利益率を誇る優良グロース銘柄で、景気後退局面でも高い収益性を維持してきた実績がある。
資本財(ロボ) 安川電機 (6506)	売上成長率: 約15% PER: 約29倍	中国向けを含むロボット需要の底打ち感が強まり、AI・EVバッテリー工場向けの受注が回復。	産業用ロボット・モーションコントロールの大手として、自動化投資の裾野拡大を取り込みやすい成長株。

4 資金投下・時間分散戦略（2段階投資の執行）

【第1弾】現在（2026年9月）：資金の50%を即時投入

半導体関連株の競争激化懸念による調整を「押し目」と捉え、まずは予算の半分を上記の配分比率（55:45）で買い付け、中長期の成長ストーリーへの投資を開始します。

【第2弾】秋口（2026年10～11月）：残りの50%を投下

11月米中間選挙前後のボラティリティ上昇局面や、日米の利上げ観測でグロース株が大きく調整する場面があれば、残りの50%資金で押し目買いを執行し、取得単価を最適化します。

5 出口戦略（売り時・利益確定の目安）

■ キャピタル利益確定とリバランスの最適タイミング

① 情報技術：AI投資サイクルのピークアウト兆候が出た局面

半導体設備投資の伸び率鈍化や在庫調整の兆候が明確化した場合、段階的に利益確定を検討します。

② 資本財（ロボ）：長期保有（維持）またはリバランス

ロボティクス自動化は複数年の構造的テーマであるため、基本は保有継続とし、四半期決算での成長率鈍化サインと円高進行の影響に注意しながら追従します。



本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の投資行動を勧誘・保証するものではありません。投資の最終決定はご自身の判断で行ってください。

A.I.P株式会社 2026年9月作成